

ビジネスプラン名：医療機器小型脳波計を用いた睡眠評価および精神疾患診断システム

発表企業のプロフィール

スリープウェル株式会社（代表取締役 吉田 政樹）（年齢：46歳）

【住所】：大阪市北区豊崎3-20-9 三栄ビル7階

【設立】：平成22年4月16日【資本金】：1110万円（数千万円に増資）

【従業員】：4名

【URL】：http://sleepwell.co.jp

【事業分野】：医療機器製造販売業、睡眠脳波分析サービス

【サマリー（今回発表するビジネスプランの概要）】：

このシステムは、医療機器脳波計「スリープスコープ」を用いて計測した睡眠脳波を分析して、睡眠の質を正確・客観的に評価できる仕組みである。サーバーに送られた睡眠脳波を解析し、成分特徴量から睡眠の質を評価するもので、操作や方法が簡単でありながら医療用精密検査と比較して、遜色ない結果が迅速に得られる。また、睡眠時の特徴波形の出現頻度や強度により、精神疾患の有無、及びその重篤度を評価する技術を確認し、日米で特許を取得した。



【発表に向けた抱負・意気込み（経営の想い、VC・ベンチャー企業支援、販路先など）】

将来の目標は、私たちの精神疾患診断システムを日本のみならず、世界的な精神疾患（特に気分障害）の第一選択バイオマーカーにすることである。精神疾患の診断は、患者の主訴と医師の観察を基にした精神症候学によって行われており、生理・生化学的な検査による診断法は、20年来求められているが未だ確立していない。出願した特許「精神疾患解析装置、精神疾患解析方法、およびプログラム」は、被検者の睡眠中の脳波から、気分障害（うつ病）の有無とレベルを判断するものである。日本国内および米国ですでに上記のとおり特許を取得し、欧州においても審査請求中である。

2009年のWHOの統計の発表によれば、全世界でうつ病の患者の罹患数は3億5千万人といわれている。米国における気分障害の患者数は2090万人、欧州においては5000万人といわれている。不眠症に関しては、米国においては、3500～4100万人、欧州においては4500万人が不眠を患っているといわれている。

気分障害（うつ病）のバイオマーカーが確立すれば、生物学的所見に基づく類型化と科学的根拠に基づいた最適な治療法の選択、経過予測や顕在発症前の早期発見（早期介入を可能にする）なども可能になることが期待される。そのことにより、上記の多大な社会的コストを削減し、我が国の経済活性化をもたらすことができる。

また、気分障害（うつ病）の客観的な評価法が開発されることにより、企業における産業精神保健管理も円滑に行えるようになり、企業活動の影響によって精神的被害を受けられた方々に対して客観的評価に基づいた対応も可能となることから、国内だけでも2兆7千億円にも上るうつ病による社会的な経済損失を軽減させることにつながる。気分障害（うつ病）だけでなく、睡眠障害の患者の数もそれに匹敵しており、不眠の度合いを適切に判断できる評価系であることから、睡眠に悩む多くの患者さまのQOL向上に有益な方法として、確立させていきたい。